

令和3年度札幌市子ども・子育てに関する 市民アンケート調査 報告書（概要版）

1. 調査の目的

札幌市では、「子どもの権利に関する推進計画」や子ども・子育て支援法に基づく「市町村子ども・子育て支援事業計画」を包含する「第4次さっぽろ子ども未来プラン」（計画期間：令和2年度～令和6年度）を策定し、計画全体の成果指標のほか、4つの基本目標ごとに進捗状況を管理・分析するためには必要となる指標を設定している。

本調査は、プランの進捗管理に必要な数値の確認と、教育・保育に関するニーズ、子ども・子育て世帯の状況や抱える問題点等を把握し、今後の子ども・子育て施策に活用するために実施した。

2. 調査の実施内容

(1) 子育てに関する市民アンケート調査

項目	内容
対象者	住民基本台帳から無作為に抽出した、0～5歳の子どもがいる世帯（保護者）15,000人
調査手法	郵送アンケート調査（郵送発送、回収）。WEBアンケートフォームによる回答も可。
調査期間	令和3年12月17日（金）～令和4年1月4日（火）
回収状況	6,760件（回収率45.1%）

(2) 子どもに関する意識調査

項目	内容
対象者	住民基本台帳から無作為に抽出した、10～18歳の子ども2,000人（調査票は10～12歳用と13～18歳用の2種類を作成）
実施方法	郵送アンケート調査
調査期間	令和3年12月17日（金）～令和4年1月4日（火）
回収状況	727件（回収率36.4%）

目次

1. 子育てに関する市民アンケート調査

- (1) 調査回答世帯の状況 ······ p. 1
- (2) 教育・保育事業利用の状況 ······ p. 5
- (3) 仕事と子育ての両立 ······ p. 8
- (4) 子育ての楽しさと大変さ ······ p.10
- (5) 子育ての悩み ······ p.11
- (6) 子どもを生み育てやすい環境 ······ p.13
- (7) 今後充実してほしい子育て支援策等 ··· p.15
- (8) 父親の育児休業取得状況 ······ p.16
- (9) 新型コロナウィルス感染症の影響 ··· p.17

2. 子どもに関する意識調査

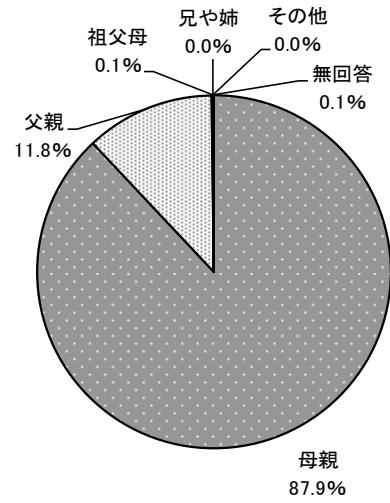
- (1) 調査回答者の状況 ······ p.20
- (2) 自分自身のことについて ······ p.21
- (3) 近所や地域とのつながりについて ··· p.22
- (4) 子どもの権利の認知度 ······ p.23
- (5) 子どもの権利が大切にされている
と思うか ······ p.24

1. 子育てに関する市民アンケート調査

(1) 調査回答世帯の状況①

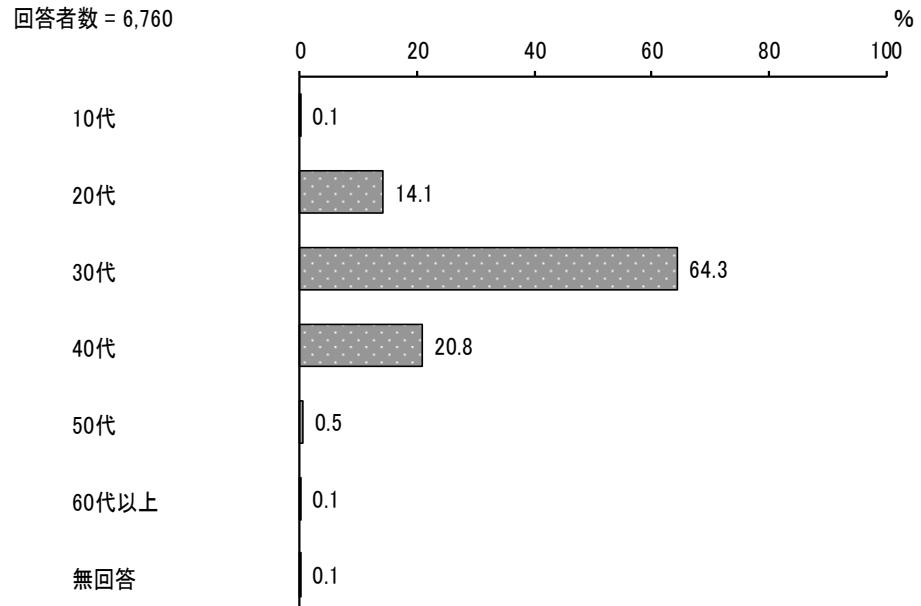
ア 調査票の回答者（問1）

- ・調査票の回答者は、母親が87.9%と最も多い、次いで父親が11.8%となっている。



イ 回答者の年代（問2）

- ・調査票の回答者の年代は、30代が64.3%と最も多い、次いで40代が20.8%、20代が14.1%となっている。

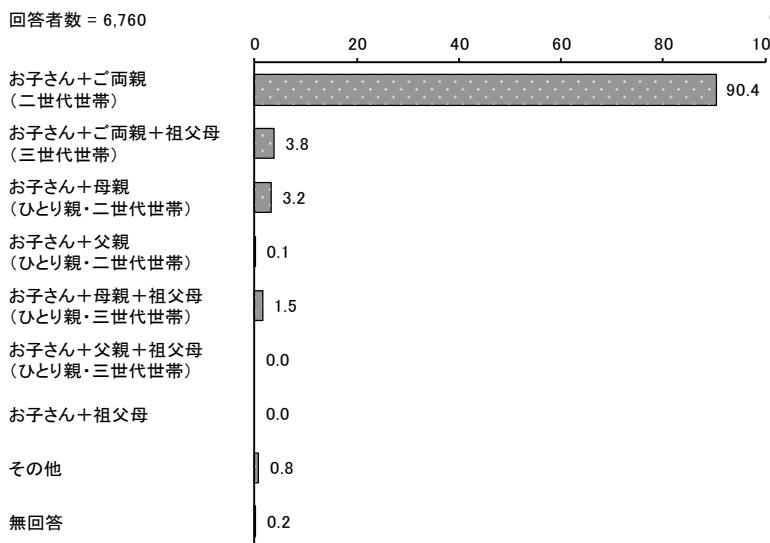


1. 子育てに関する市民アンケート調査

(1) 調査回答世帯の状況②

ウ 世帯構成（問6）

- 世帯構成は、「お子さん+ご両親」(二世代世帯)が90.4%と最も多く、「お子さん+ご両親(父のみ・母のみを含む)+祖父母」の三世代世帯は5.3%となっている。



エ 世帯年収（問8）

【クロス集計】世帯構成（問6）

- 「お子さん+ご両親(二世代世帯)」、「お子さん+ご両親+祖父母(三世代世帯)」年収は、ともに「500万円以上～700万円未満」が最も多くなっている。
- 「お子さん+母親(ひとり親・二世代世帯)」、「お子さん+母親+祖父母(三世代世帯)」は、ともに「200万円未満」が最も多くなっている。

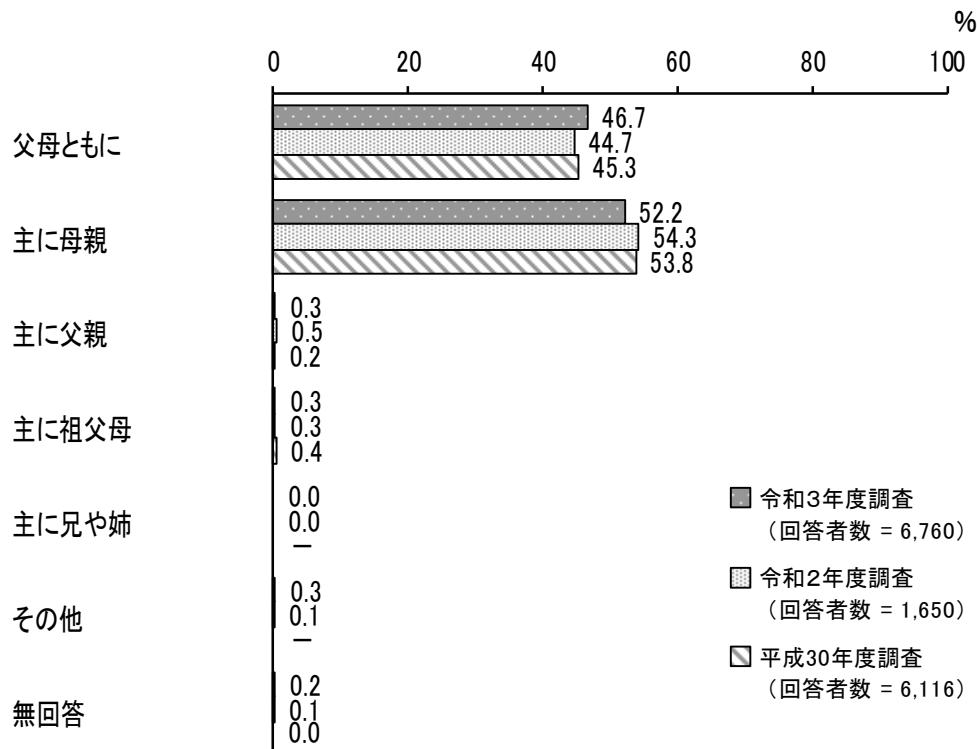
単位 : %

区分	回答者数(件)	200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～700万円未満	700～1,000万円未満	1,000万円以上	ないからない・答えたく	無回答
全体	6760	3.5	5.1	11.2	14.3	29.1	21.1	8.2	6.7	0.8
問6 世帯構成										
お子さん+ご両親 (二世代世帯)	6,114	1.5	4.3	11.0	14.7	30.4	22.5	8.6	6.3	0.7
お子さん+ご両親+祖父母 (三世代世帯)	260	2.3	6.5	13.5	15.8	30.8	15.4	8.5	5.8	1.5
お子さん+母親 (ひとり親・二世代世帯)	215	44.2	18.6	12.1	7.4	2.8	1.4	0.5	12.1	0.9
お子さん+父親 (ひとり親・二世代世帯)	7	14.3	28.6	14.3	28.6	14.3	—	—	—	—
お子さん+母親+祖父母 (ひとり親・三世代世帯)	99	30.3	18.2	14.1	5.1	5.1	1.0	1.0	24.2	1.0
お子さん+父親+祖父母 (ひとり親・三世代世帯)	2	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—
お子さん+祖父母	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	51	11.8	7.8	5.9	7.8	27.5	15.7	9.8	13.7	—

1. 子育てに関する市民アンケート調査

(1) 調査回答世帯の状況③

オ 家事や育児の担い手（問7）



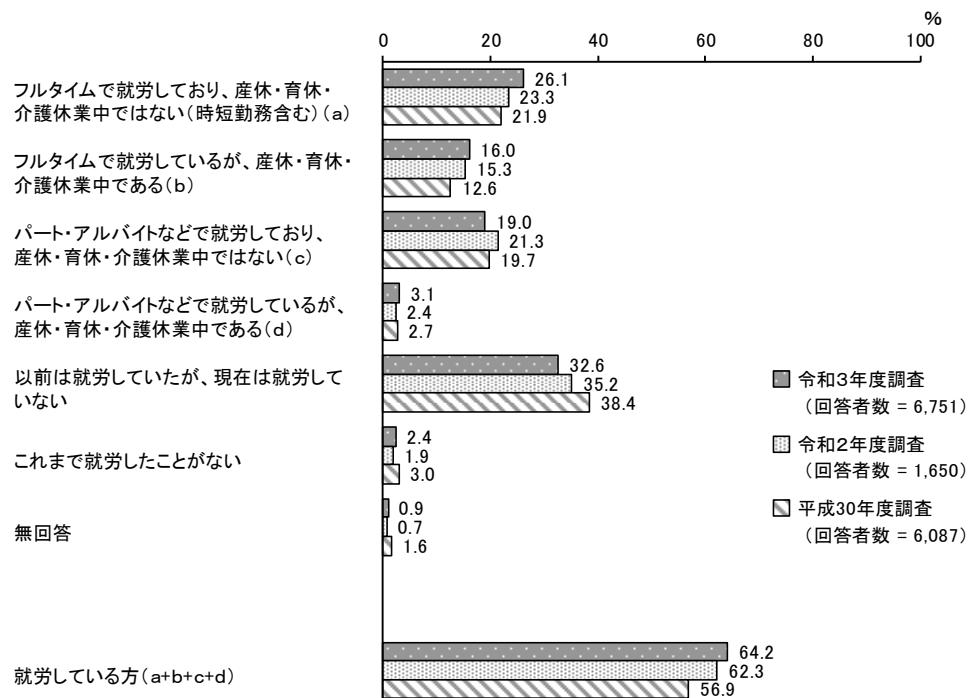
- 家事や育児の主な担い手は、「主に母親」が52.2%と最も多く、次いで、「父母ともに」が46.7%となっている。
- 令和2年度調査、平成30年度調査との比較では、大きな差異はみられない。

1. 子育てに関する市民アンケート調査

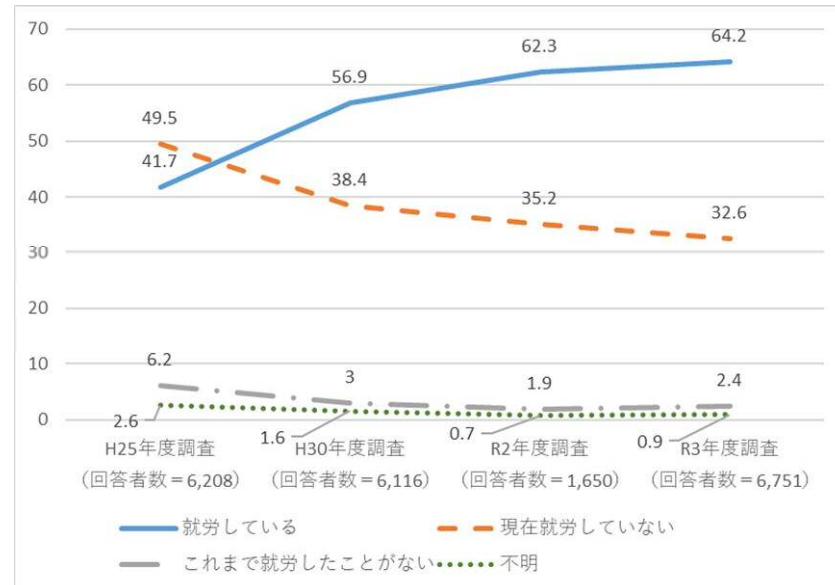
(1) 調査回答世帯の状況④

力 母親の就労状況（問14）

- ・母親の現在の就労状況については、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が32.6%で最も多く、次いで「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(26.1%) となっている。
- ・平成30年度調査と比較すると、「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合が5.8ポイント低下し、フルタイム、パート・アルバイトなどで就労している方(休業中を含む)の割合が7.3ポイント上昇している。
- ⇒平成25年度調査(8年前)と比較すると、『就労している方』の割合は22.5ポイント上昇している。
(H25:41.7%、H30:56.9%、R2:62.3%、R3:64.2%)



《参考》年度比較 (H25・H30・R2・R3)



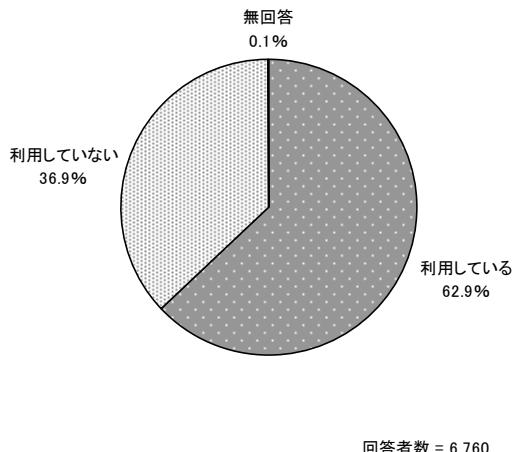
1. 子育てに関する市民アンケート調査

(2) 教育・保育事業利用の状況①

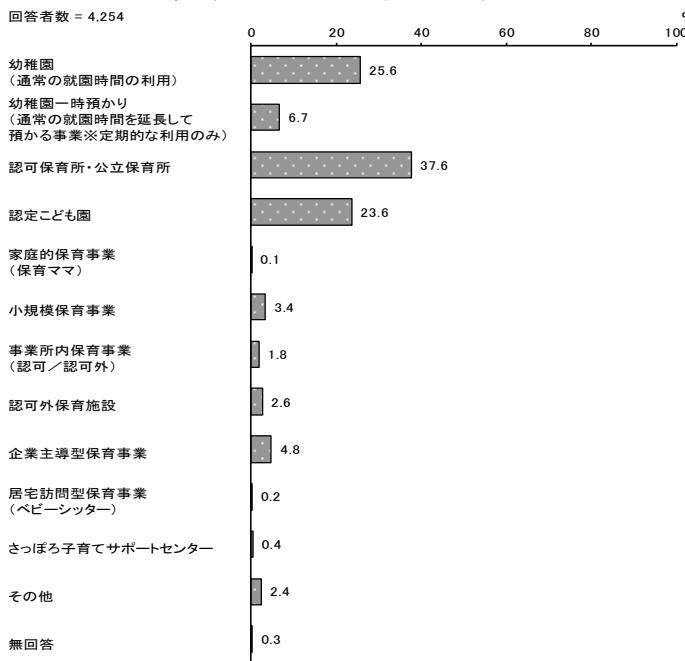
ア 平日の教育・保育事業の利用について

- ・教育・保育事業の利用状況について、「利用している」の割合が62.9%、「利用していない」の割合が36.9%となっている。
- ・年間を通じて定期的に利用している事業は、「認可保育所・公立保育所」の割合が37.6%と最も多く、次いで「幼稚園(通常の就園時間の利用)」(25.6%)、「認定こども園」(23.6%)となっている。
- ・現在、利用している、利用していないにかかわらず、定期的に利用したいと考える事業は、「幼稚園」が45.1%と最も多く、次いで、「認可保育所・公立保育所」(44.3%)、「認定こども園」(40.9%)となっている。

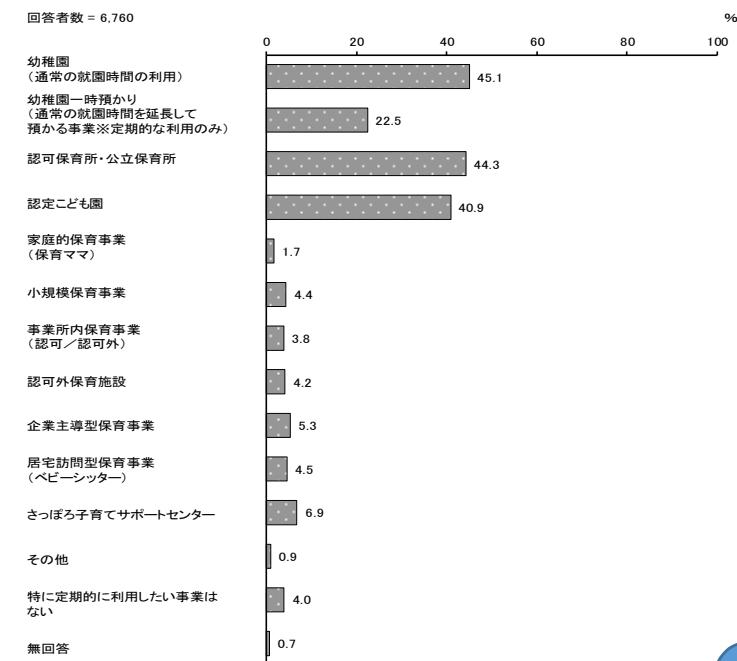
教育・保育事業の利用状況
(問16)



定期的に利用している教育・保育事業 《複数回答》 (問16(1))



定期的に利用したいと考える教育・保育事業《複数回答》 (問17)



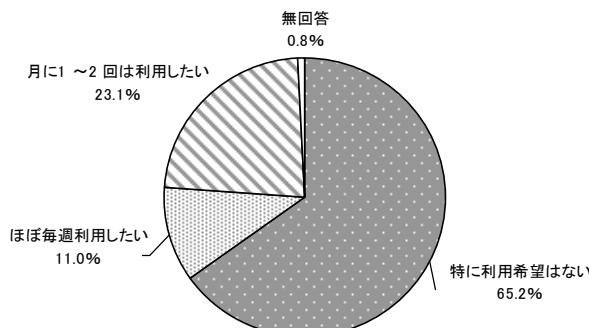
1. 子育てに関する市民アンケート調査

(2) 教育・保育事業利用の状況②

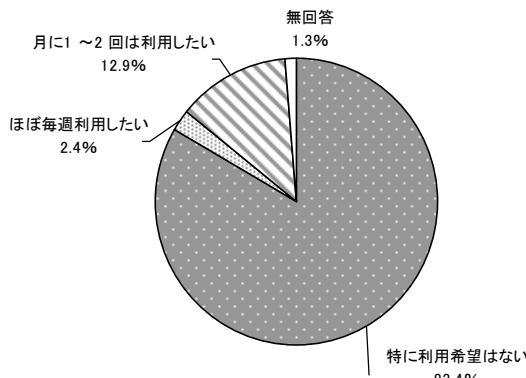
イ 土曜日、日曜日・祝日の教育・保育事業の利用について（問18関係）

- ・土曜日の利用希望について、「特に利用希望はない」の割合が65.2%と最も多く、次いで、「月に1～2回は利用したい」(23.1%)となっている。
- ・日曜日・祝日の利用希望について、「特に利用希望はない」の割合が83.4%と最も多く、次いで、「月に1～2回は利用したい」(12.9%)となっている。
- ・平成30年度調査と比較すると、大きな差異はみられない。

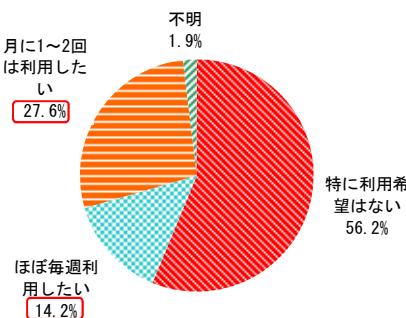
土曜日の利用希望（回答者数=6,760）



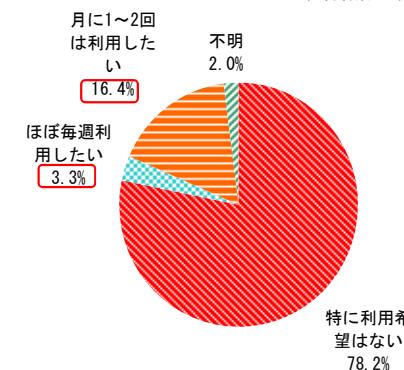
日曜日・祝日の利用希望（回答者数=6,760）



《参考》平成30年度調査
土曜日の利用希望
(回答者数=6,116)



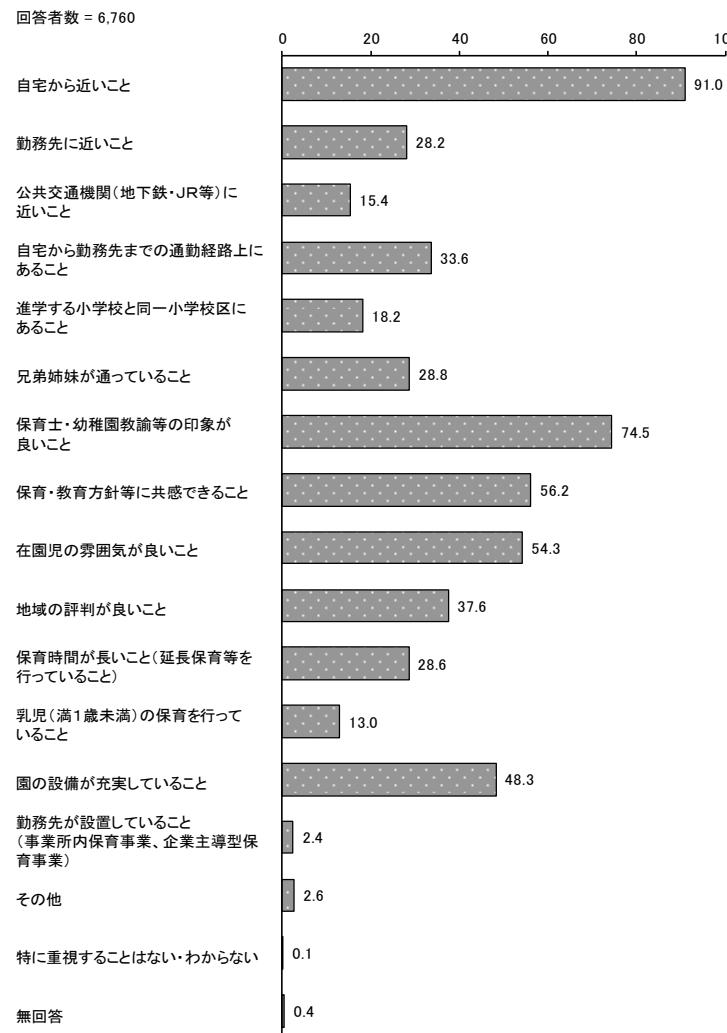
《参考》平成30年度調査
日曜日・祝日の利用希望
(回答者数=6,116)



1. 子育てに関する市民アンケート調査

(2) 教育・保育事業利用の状況③

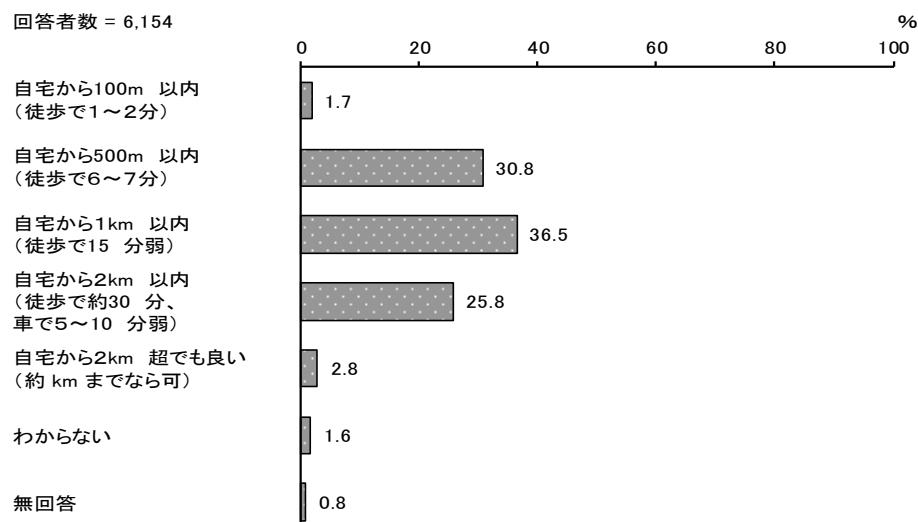
ウ 教育・保育事業の利用にあたり、重視すること（問20関係）《複数回答》



・教育・保育事業を利用するにあたり、重視することについて、「自宅から近いこと」が91.0%と最も多く、次いで、「保育士・幼稚園教諭等の印象が良いこと」(74.5%)、「保育・教育方針等に共感できること」(56.2%)となっている。

《「自宅から近いこと」に○をつけた方》 自宅から最大限どの程度の距離なら利用できると考えるか（問20(1)）

・「自宅から1km以内(徒歩で15分弱)」の割合が36.5%と最も多く、次いで「500m以内(徒歩6~7分)」(30.8%)、「2km以内(徒歩で約30分、車で5~10分弱)」(25.8%)となっている。

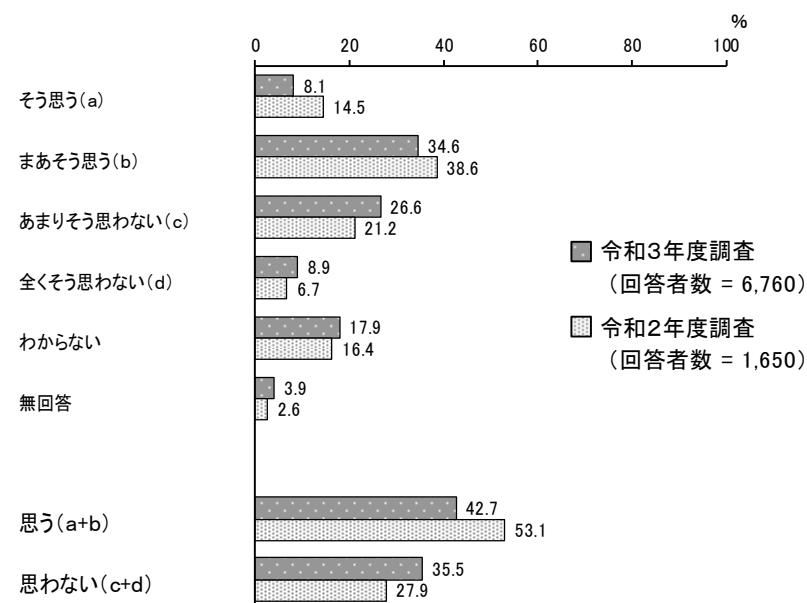


1. 子育てに関する市民アンケート調査

(3) 仕事と子育ての両立①（問22関係）

ア 仕事と子育ての両立に調和がとれていると思うか

- ・仕事と子育ての両立について、調和がとれていると『思う』（「そう思う」+「まあそう思う」と回答した世帯は、42.7%となっている。
- ・令和2年度調査と比べ、調和がとれていると『思う』と回答した世帯は、10.4ポイント低下している。



イ 仕事と子育ての両立に調和がとれていると思うか 【クロス集計】家事や育児の担い手（問7）

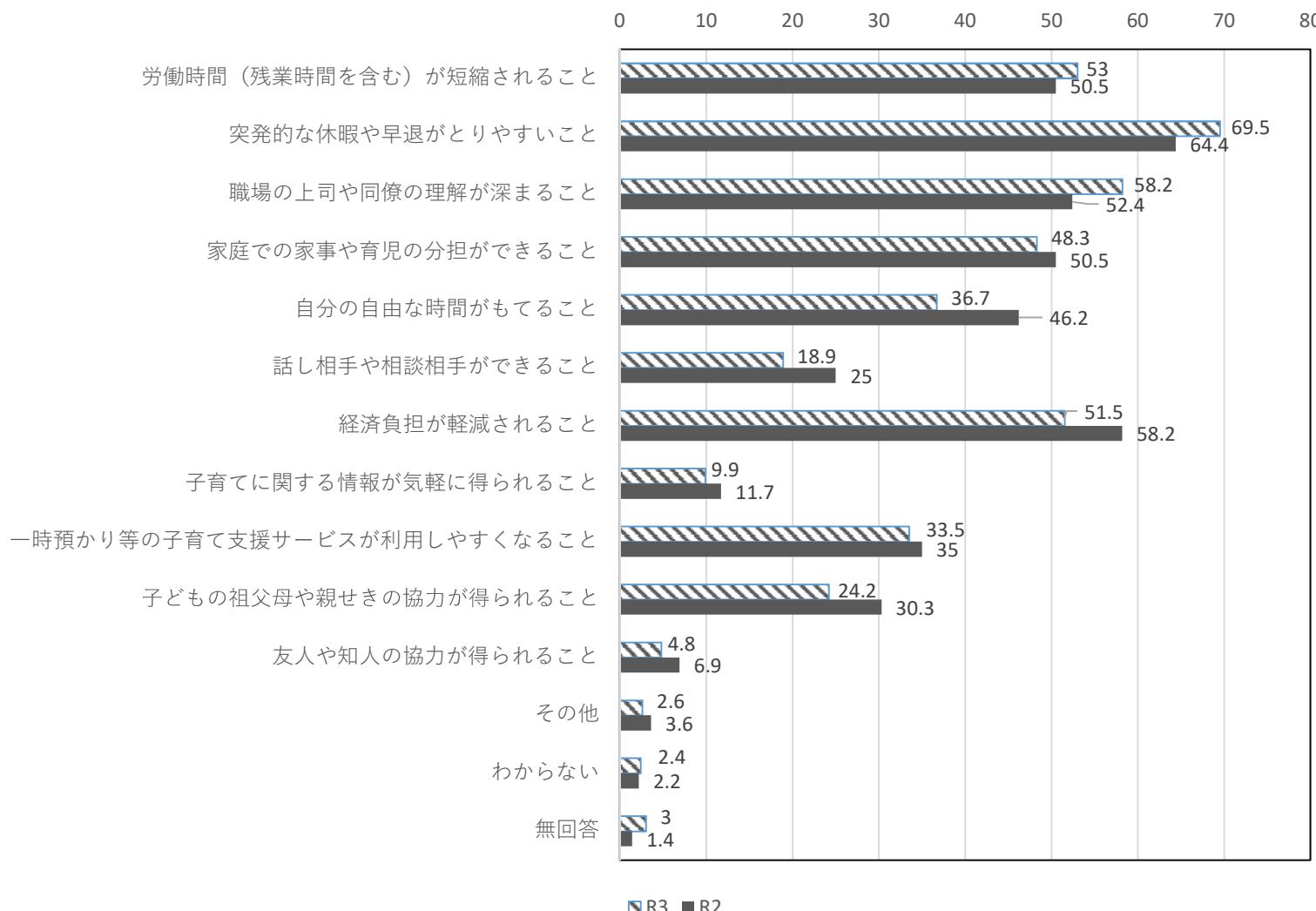
- ・調和がとれていると『思う』割合（左記a+b）は、子育ての担い手が、「主に母親」と答えた世帯33.8%と比べて、「父母ともに」と回答した世帯（52.7%）が多くなっている。

区分	回答者数	そう思う	まあそう思う	あまりそう思	全くそう思	わからない	無回答
全体	6760	8.1	34.6	26.6	8.9	17.9	3.9
問7 家事や育児の担い手							
父母ともに	3158	9.9	42.8	24.6	6.9	13.3	2.4
主に母親	3526	6.5	27.3	28.3	10.6	22.1	5.2
主に父親	18	22.2	16.7	33.3	22.2	5.6	—
主に祖父母	23	4.3	43.5	34.8	8.7	8.7	—
主に兄や姉	1	—	—	—	100.0	—	—
その他	21	4.8	14.3	38.1	23.8	19.0	—

1. 子育てに関する市民アンケート調査

(3) 仕事と子育ての両立②（問23関係）

ウ どうしたら、仕事と子育ての両立に調和がよりとれるようになるか《複数回答》



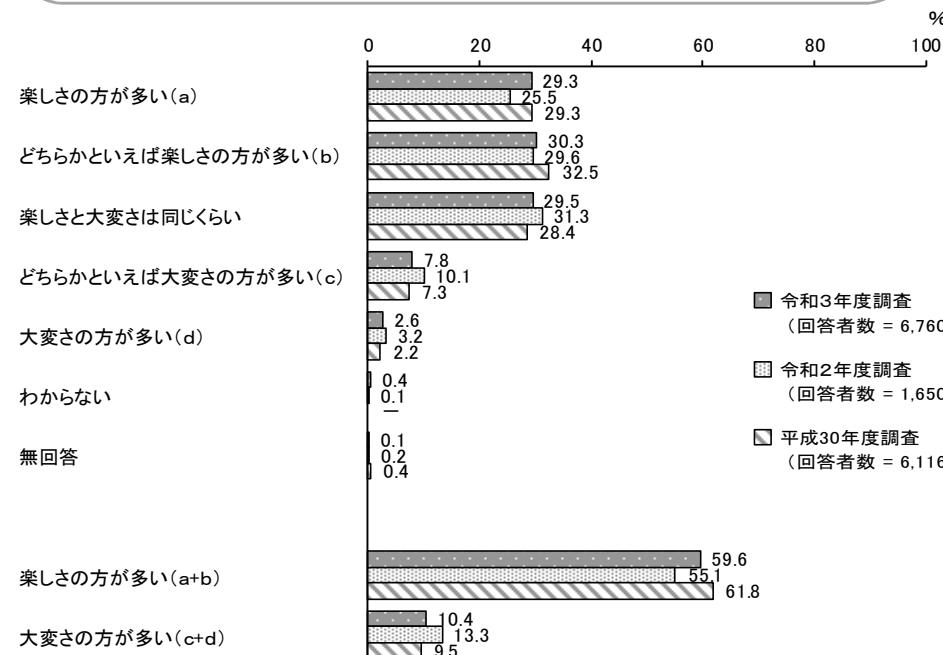
- ・どうしたら仕事と子育ての両立に調和がよりとれるようになるかについて、「突発的な休暇や早退がとりやすいこと」(69.5%)が最も多く、次いで「職場の上司や同僚の理解が深まること」(58.2%)、「労働時間(残業時間を含む)が短縮されること」(53.0%)となっている。
- また、「経済的負担が軽減されること」(51.5%)も半数以上が該当すると回答している。
- ・令和2年度と比較してみると、職場との調整が難しいと感じている方が増えていることがわかる。

1. 子育てに関する市民アンケート調査

(4) 子育ての楽しさと大変さ（問12関係）

① 子育てをしていて楽しさと大変さのどちらを感じることが多いか

- ・『楽しさの方が多い』(「楽しさの方が多い」+「どちらかといえば楽しさの方が多い」)が59.6%、『大変さの方が多い』(「大変さの方が多い」+「どちらかといえば大変さの方が多い」)が10.4%となっている。
- ・令和2年度調査、平成30年度調査との比較では、大きな差異はみられない。



② 子育てをしていて楽しさと大変さのどちらを感じることが多いか

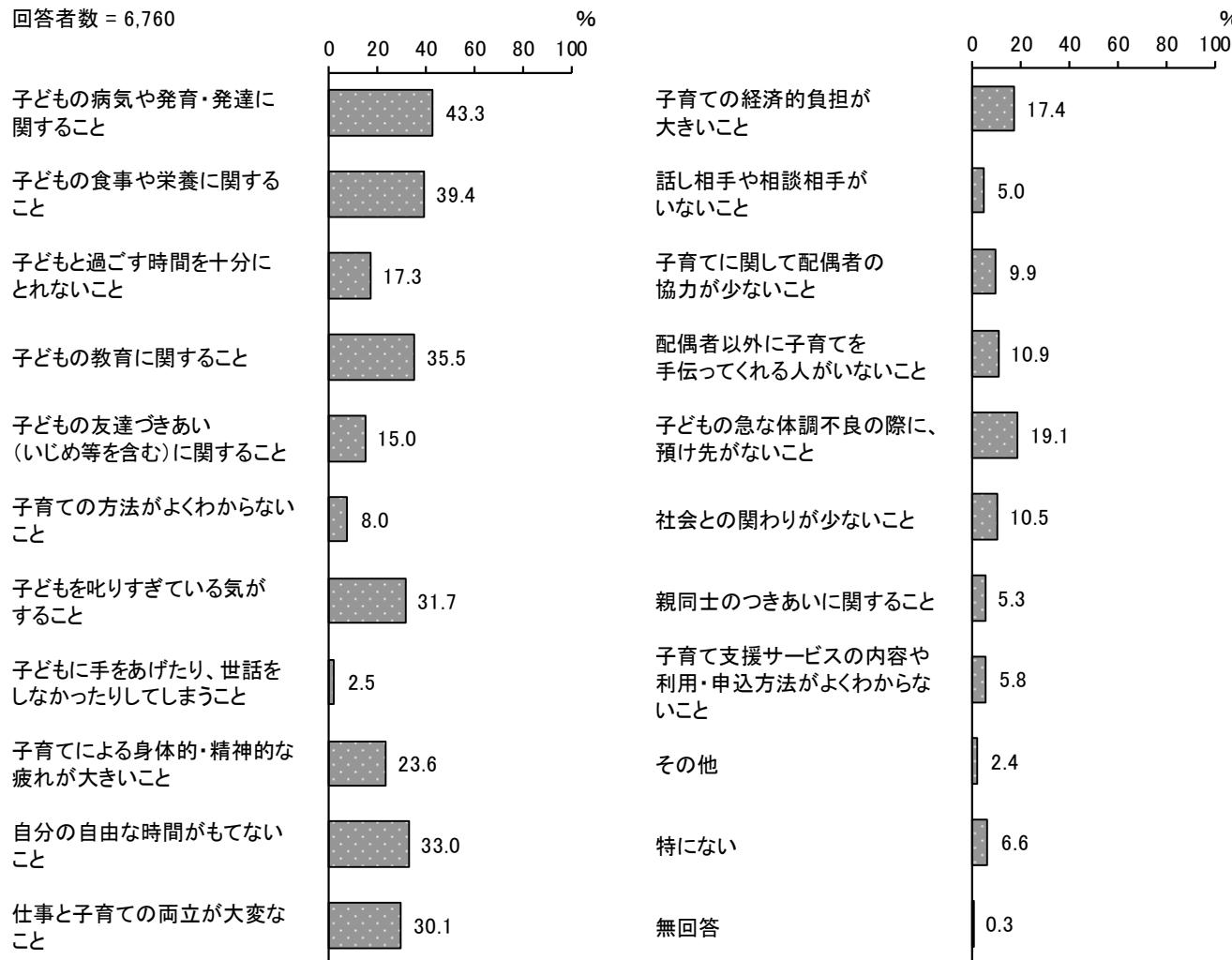
【クロス集計】世帯構成（問6）

- ・世帯構成別にみると、『大変さの方が多い』の回答は、全体(10.4%)に比べて、お子さん+母親(ひとり親・二世代世帯)の世帯(18.1%)の回答が多くなっている。

区分	回答者数(件)	楽しさの方が多い	どちらかといえば楽しさの方が多い	同じくらい大変さは	大変さの方が多い	大変さの方が多い	わからない	無回答
全体	6760	29.3	30.3	29.5	7.8	2.6	0.4	0.1
問6 世帯構成								
お子さん+ご両親 (二世代世帯)	6114	29.3	30.2	29.6	7.7	2.6	0.4	0.1
お子さん+ご両親+祖父母 (三世代世帯)	260	36.2	30.4	27.3	3.1	1.9	0.8	0.4
お子さん+母親 (ひとり親・二世代世帯)	215	21.4	31.2	29.3	14.4	3.7	—	—
お子さん+父親 (ひとり親・二世代世帯)	7	28.6	28.6	42.9	—	—	—	—
お子さん+母親+祖父母 (ひとり親・三世代世帯)	99	29.3	26.3	33.3	9.1	1.0	1.0	—
お子さん+父親+祖父母 (ひとり親・三世代世帯)	2	50.0	50.0	—	—	—	—	—
お子さん+祖父母	1	—	—	100.0	—	—	—	—
その他	51	29.4	35.3	15.7	15.7	3.9	—	—

1. 子育てに関する市民アンケート調査

(5) 子育ての悩み① (問13関係) 《複数回答》

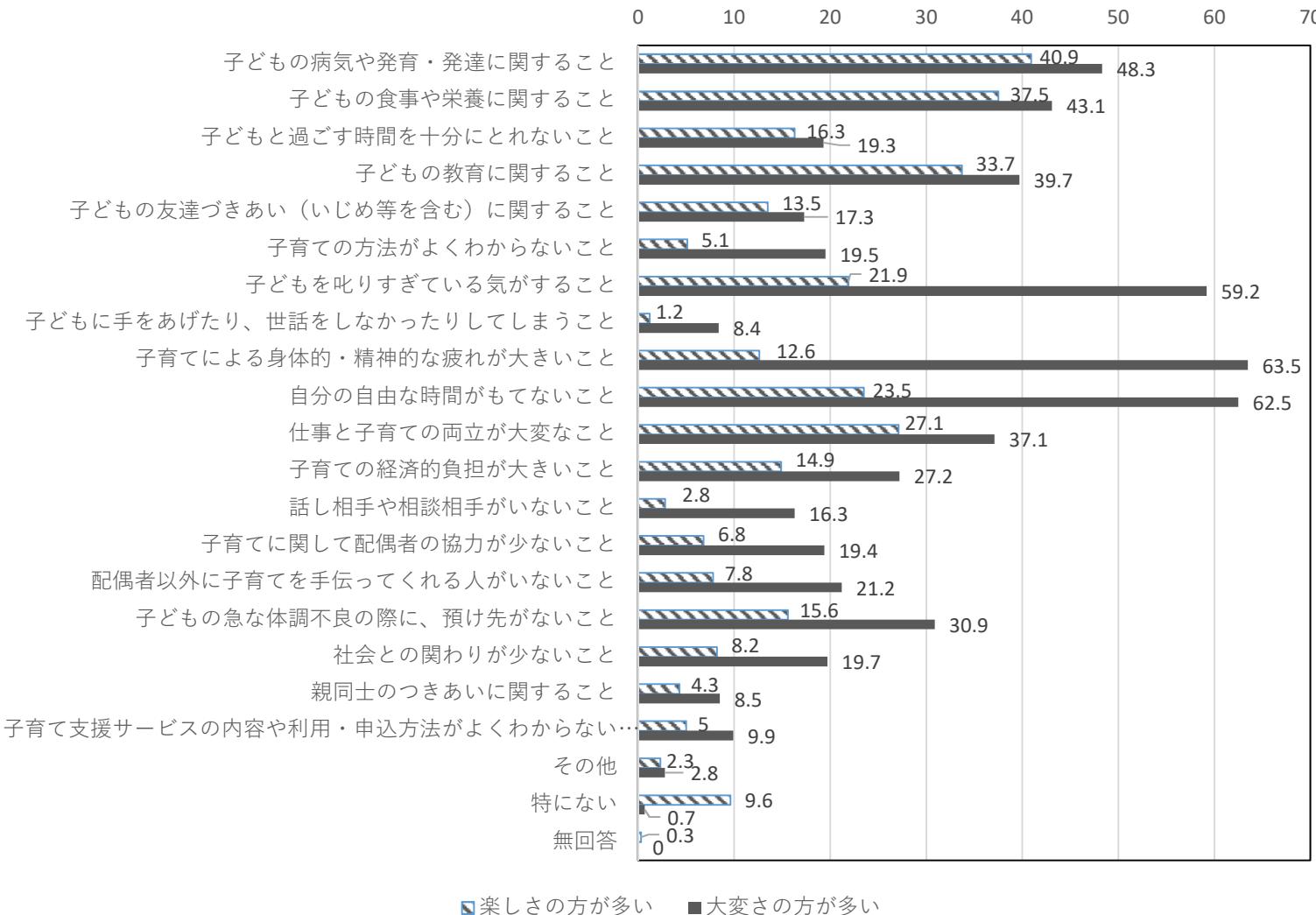


・子育ての悩みについて、全体では、「子どもの病気や発育・発達に関すること」が43.3%と最も多く、次いで、「子どもの食事や栄養に関すること」(39.4%)、「子どもの教育に関するこ

1. 子育てに関する市民アンケート調査

(5) 子育ての悩み② (問13) 《複数回答》

【クロス集計】子育てをしていて楽しさと大変さのどちらを感じることが多いか (問12)

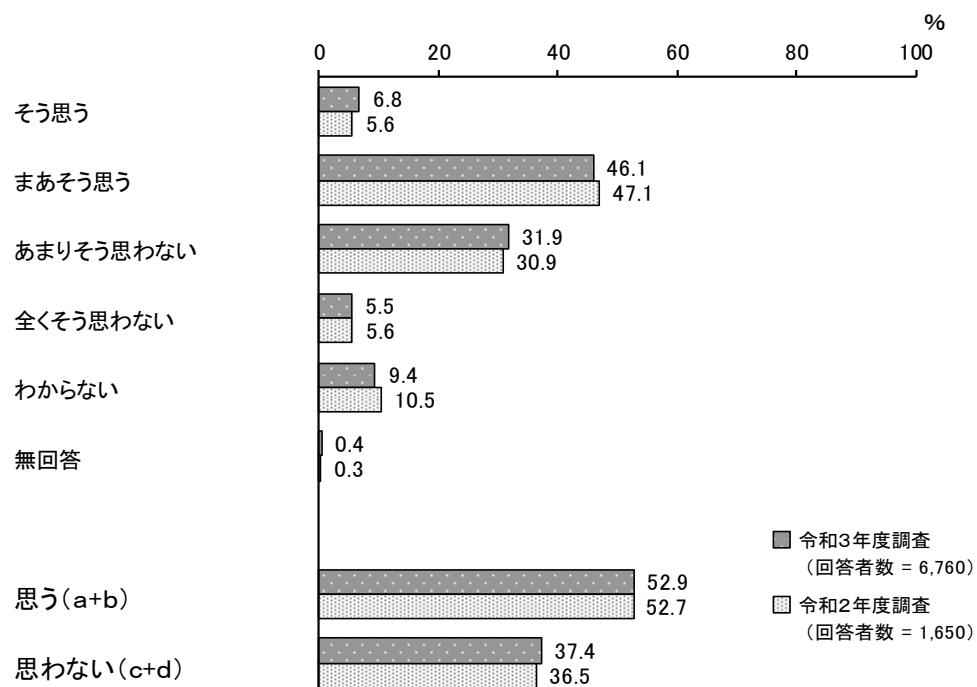


- 子育ての悩みについて回答している方にについて項目ごとみると、『大変さの方が多い』と回答した方の割合が『楽しさの方が多い』と回答した方の割合を上回っている。(特にない、無回答を除く)
- 特に、『大変さの方が多い』と『楽しさの方が多い』と回答した方で倍以上の差が見られた項目は次のとおり。
 - 「子育ての方法がよくわからないこと」(3.8倍)
 - 「子どもを叱りすぎている気がすること」(2.7倍)
 - 「子どもに手をあげたり、世話をしなかったりしてしまうこと」(7倍)
 - 「子育てによる身体・精神的な疲れが大きいこと」(5倍)
 - 「自分の自由な時間が持てないこと」(2.7倍)
 - 「話し相手や相談相手がいないこと」(5.8倍)
 - 「子育てに対して配偶者の協力が少ないこと」(2.9倍)
 - 「配偶者以外に子育てを手伝ってくれる人がいないこと」(2.7倍)
 - 「社会との関わりが少ないこと」(2.4倍)
- 相談相手や協力者が少ないなどの孤立した状況が、子育てのストレスにつながっていると見ることができる。

1. 子育てに関する市民アンケート調査

(6) 子どもを生み育てやすい環境①

- ① 札幌市が、子どもを生み育てやすい環境にあると思うか（問24）



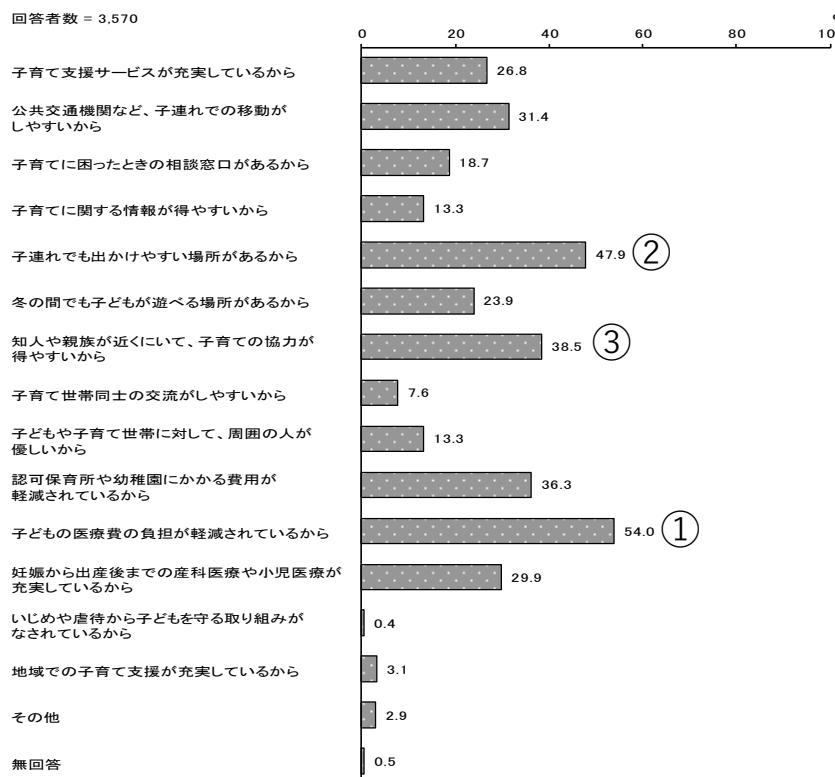
・札幌市が、子どもを生み育てやすい環境にあると『思う』（「そう思う」+「まあそう思う」）が52.9%、『思わない』（「あまりそう思わない」+「全くそう思わない」）が37.4%となっている。
・令和2年度調査と比較すると、大きな差異はみられない。

1. 子育てに関する市民アンケート調査

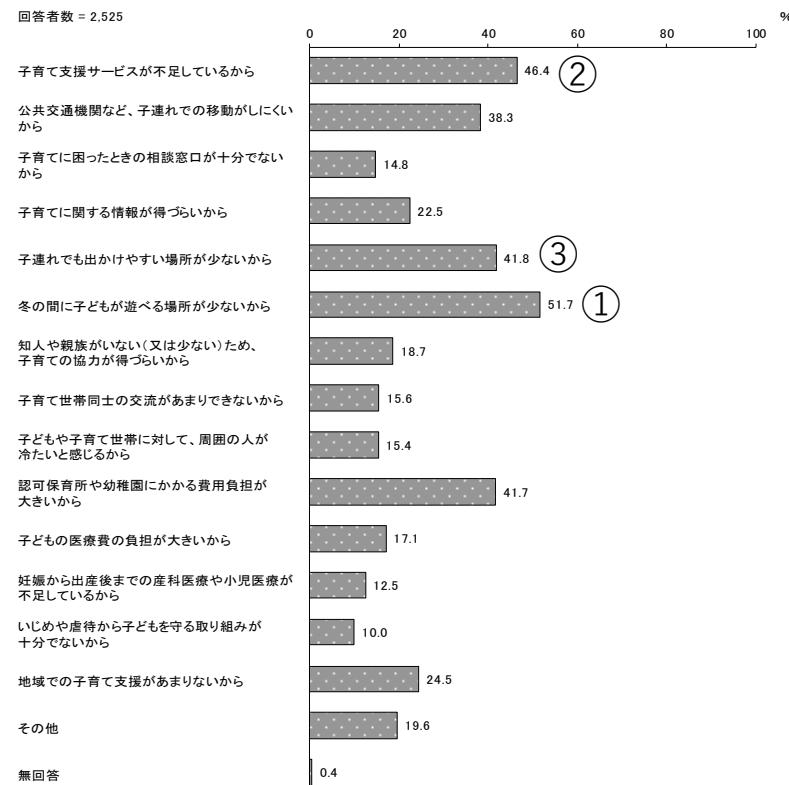
(6) 子どもを生み育てやすい環境②

- ・札幌市が、子どもを生み育てやすい環境にあると思う理由は、「子どもの医療費の負担が軽減されているから」が54.0%と最も多く、次いで「子連れでも出かけやすい場所があるから」(47.9%)、「知人や親族が近くにいて、子育ての協力が得やすいから」(38.5%)となっている。
- ・一方、札幌市が、子どもを生み育てやすい環境にあると思わない理由は、「冬の間に子どもが遊べる場所が少ないから」が51.7%が最も多く、次いで「子育て支援サービスが不足しているから」(46.4%)、「子連れでも出かけやすい場所が少ないから」(41.8%)となっている。

② 札幌市が、子どもを生み育てやすい環境にあると思う理由（問24(1)）

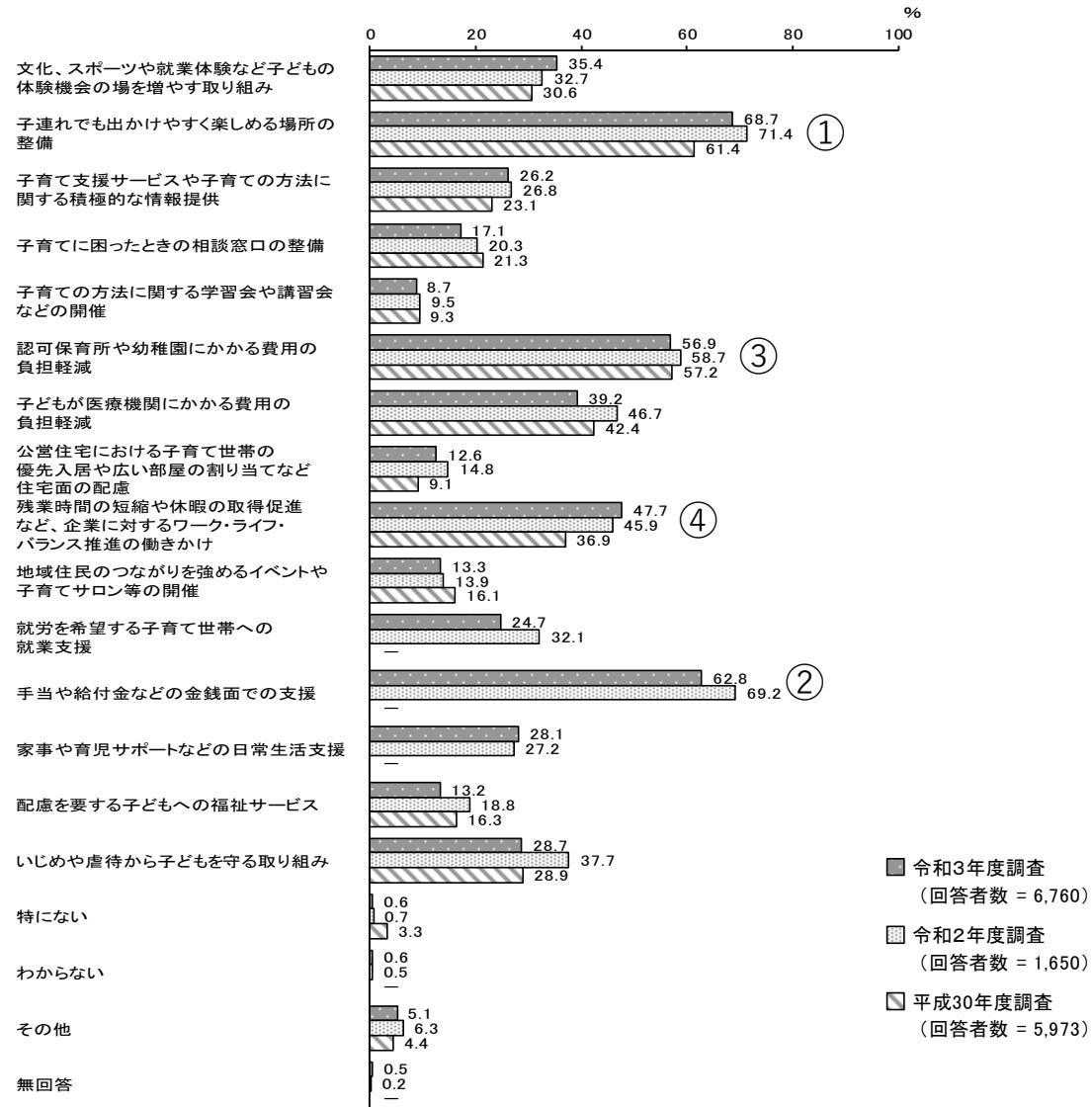


③ 札幌市が、子どもを生み育てやすい環境にあると思わない理由（問24(2)）



1. 子育てに関する市民アンケート調査

(7) 今後充実してほしい子育て支援策等（問25関係）《複数回答》



- 今後充実してほしい子育て支援策について、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所の整備」が68.7%と最も多く、次いで、「手当や給付金などの金銭面での支援」(62.8%)、「認可保育所や幼稚園にかかる費用の負担軽減」(56.9%)となっている。
- 平成30年度調査と比較すると、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所の整備」(+7.3ポイント)、「残業時間の短縮や休暇の取得促進など、企業に対するワーク・ライフ・バランス推進の働きかけ」(+10.8ポイント)の割合が上昇している。

1. 子育てに関する市民アンケート調査

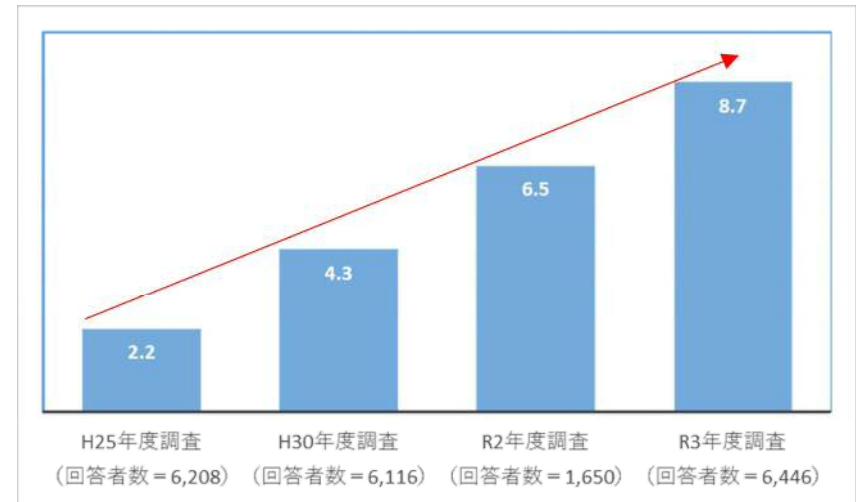
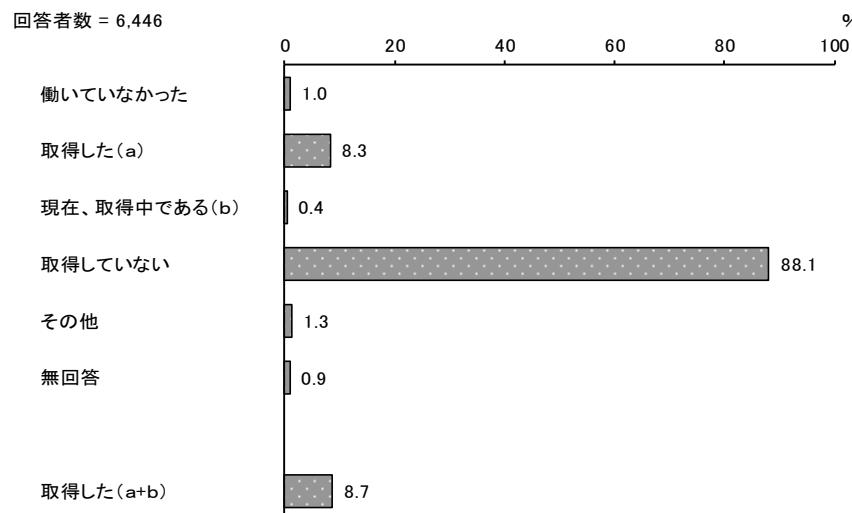
(8) 父親の育児休業取得状況（問21関係）

ア 父親の育児休業取得状況

・父親が育児休業を『取得した』（「取得した」+「現在、取得中である」）と回答した世帯は、8.7%となっている。

【年度比較（H25・H30・R2・R3）】

・過去の調査と比べて、父親が育児休業を取得した（「取得した」「現在、取得中である」と回答した世帯は、上昇している。
(H25: 2.2%、H30: 4.3%、R2: 6.5%、R3: 8.7%)
⇒8年間で+6.5ポイント上昇

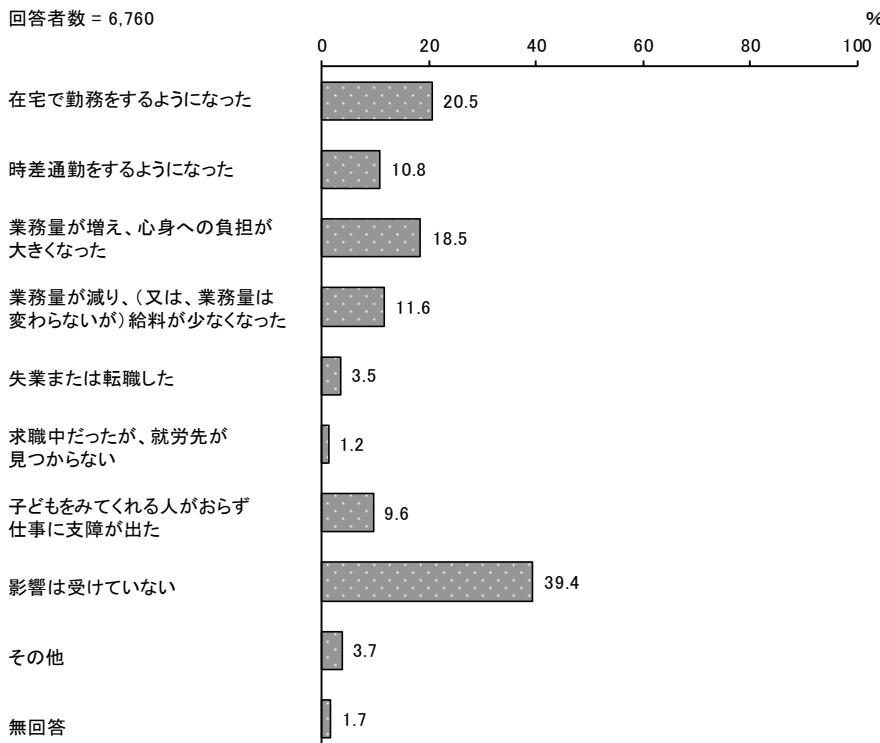


1. 子育てに関する市民アンケート調査

(9) 新型コロナウイルス感染症の影響①

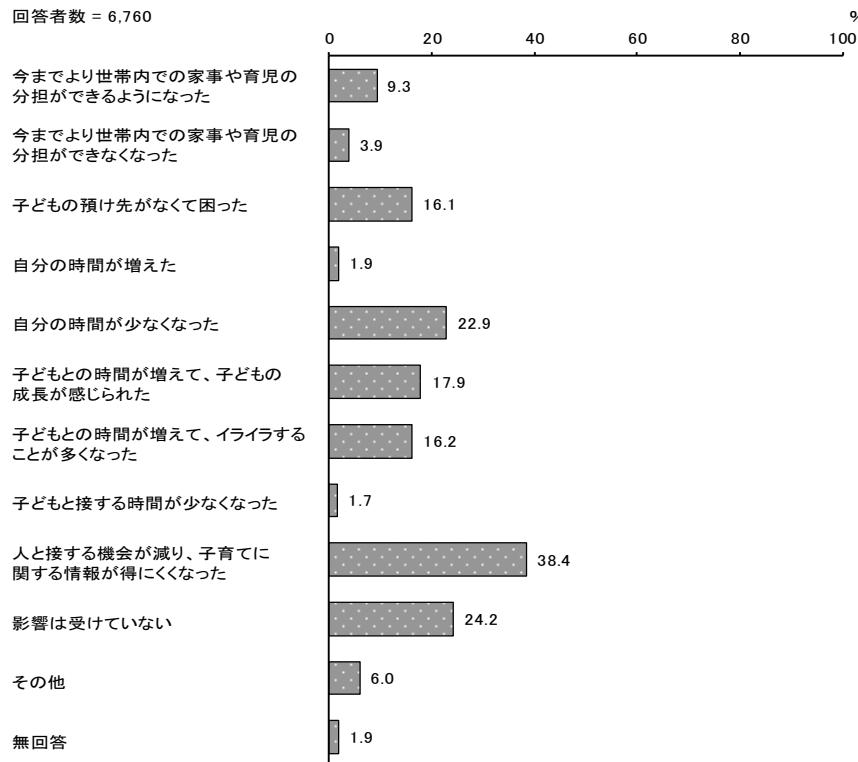
ア 仕事の状況（問31関係）《複数回答》

- ・新型コロナウイルス感染症の影響（仕事の状況）は、「影響は受けていない」が39.4%と最も高く、次いで「在宅で勤務をするようになった」（20.5%）、「業務量が増え、心身への負担が大きくなった」（18.5%）となっている。



イ 家庭や育児の状況（問32関係）《複数回答》

- ・新型コロナウイルス感染症の影響（家庭や育児の状況）は、「人と接する機会が減り、子育てに関する情報が得にくくなった」が38.4%と最も高く、次いで「影響は受けていない」（24.2%）、「自分の時間が少なくなった」（22.9%）となっている。

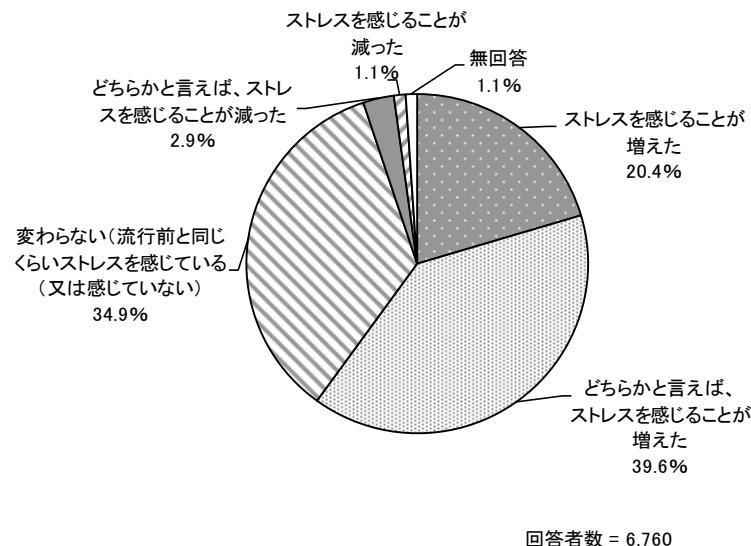


1. 子育てに関する市民アンケート調査

(9) 新型コロナウイルス感染症の影響②

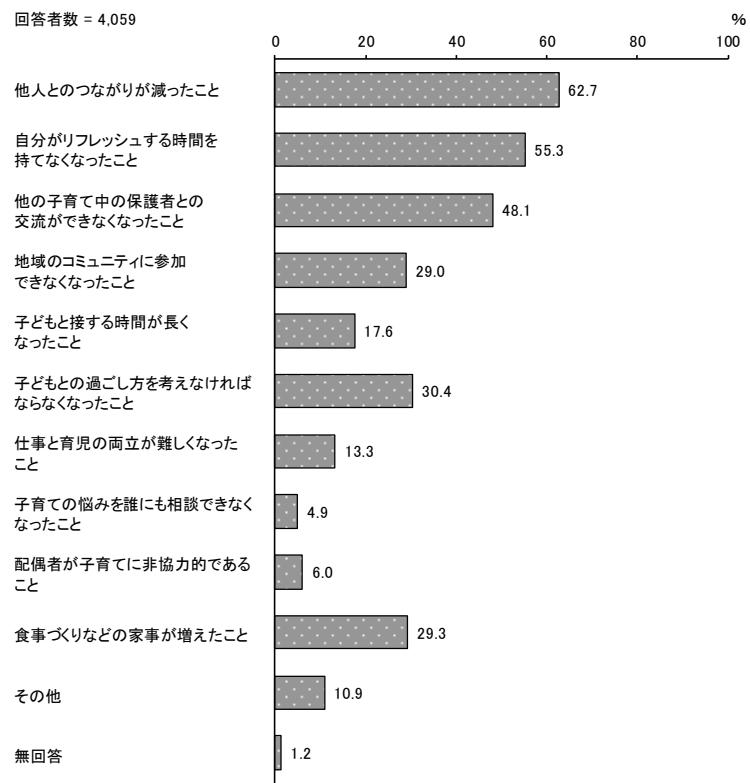
ウ ストレスの状況（問33関係）

・新型コロナウイルス感染症の流行前と比べ、子育てに対して『ストレスを感じることが増えた』（『ストレスを感じることが増えた』+『どちらかといえば、ストレスを感じることが増えた』）の割合が60.0%となっている。



エ ストレスを感じることが増えた原因

・『ストレスを感じることが増えた』原因として、「他人とのつながりが減ったこと」が62.7%と最も高く、次いで「自分がリフレッシュする時間を持てなくなったこと」(55.3%)、「他の子育て中の保護者との交流ができなくなったこと」(48.1%)となっている。

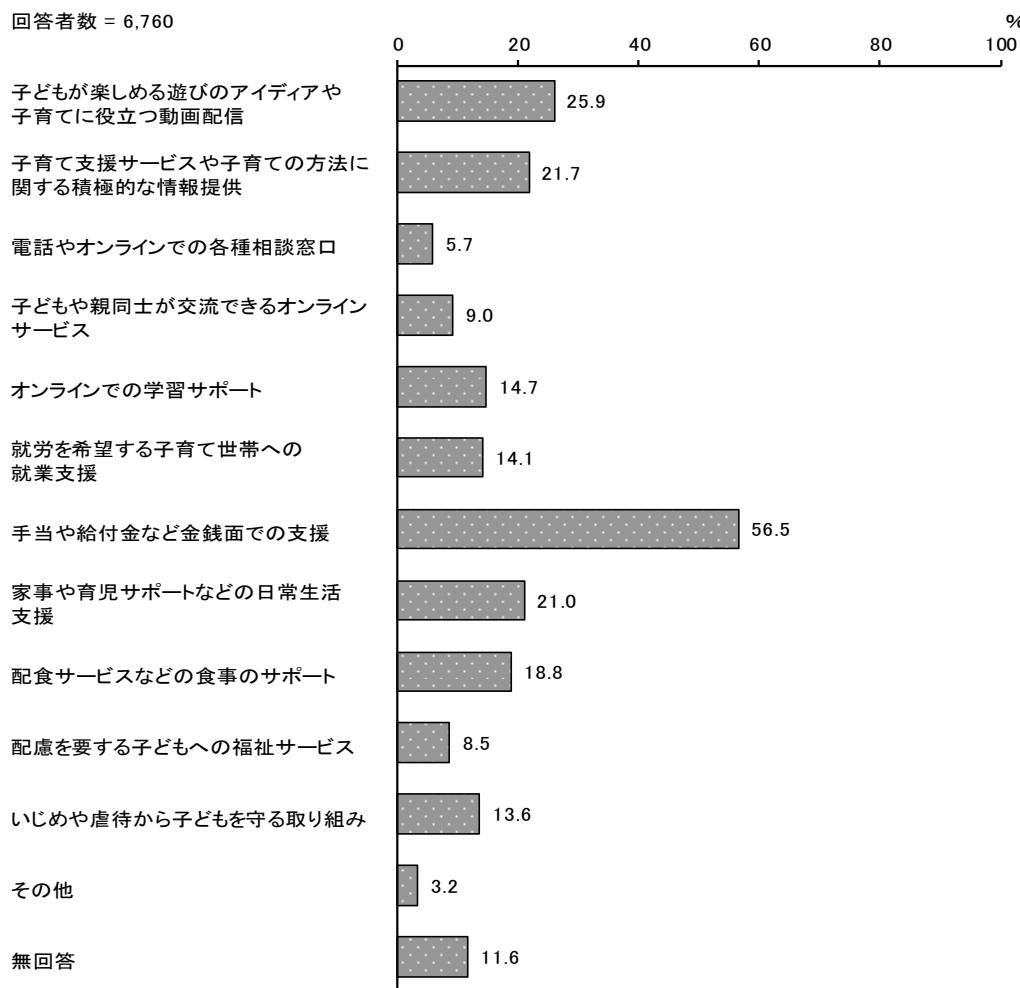


1. 子育てに関する市民アンケート調査

(9) 新型コロナウイルス感染症の影響③

オ 特に充実してほしいと感じた子育て支援サービス等（問35関係）《複数回答》

回答者数 = 6,760



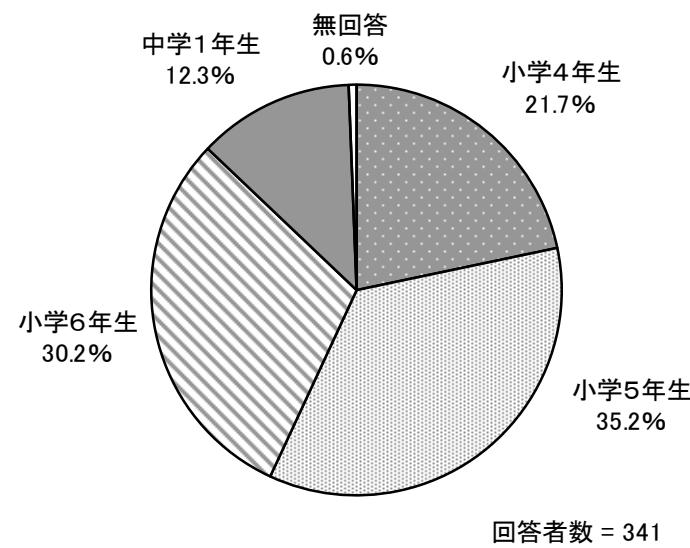
・特に充実してほしいと感じた子育て支援サービス等は、「手当や給付金など金銭面での支援」が56.5%と最も多く、次いで「子どもが楽しめる遊びのアイディアや子育てに役立つ動画配信」(25.9%)、「子育て支援サービスや子育ての方法に関する積極的な情報提供」(21.7%)となっている。

2. 子どもに関する意識調査

(1) 調査回答者の状況（問2）

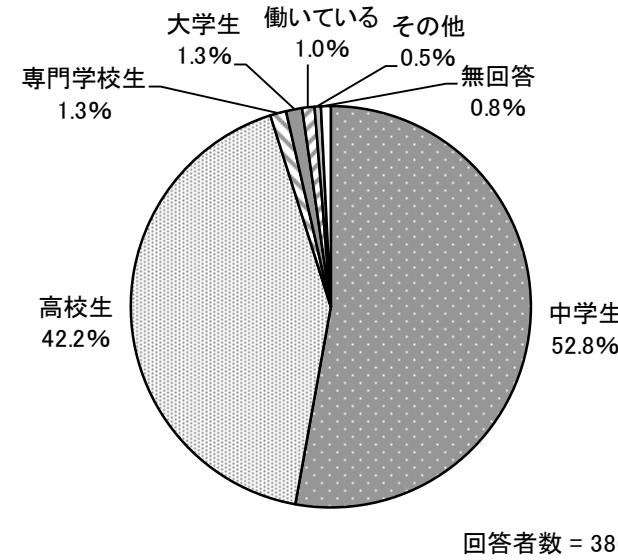
①回答者の学年（10～12歳）

- 回答者数は、小学生が全体の87.1%を占めている。



②回答者の状況（13～18歳）

- 回答者数は、中学生及び高校生がそれぞれ全体の約半数を占める。



2. 子どもに関する意識調査

(2) 自分自身のことについて（問5）

- ・自分自身のことについて、いずれの項目でも『思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）の割合は6割以上と高くなっている。
 - ・⑦の自己肯定感については、『思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）は67.3%となっている。

【成果指標】

自分のことが好きだと思う子どもの割合

(当初値)
H30年度
67.4%

R2年度
67.6%

R3年度
67.3%

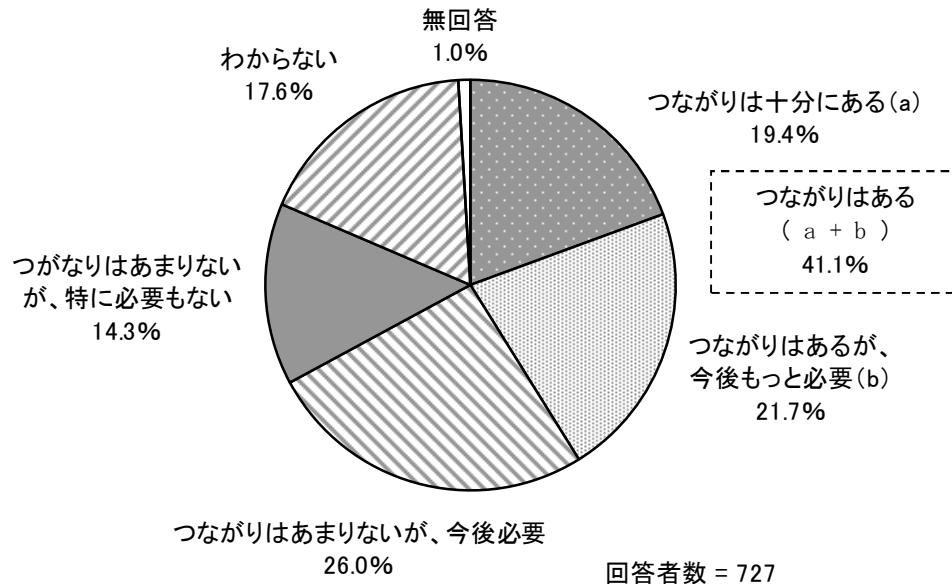
(目標値)
R6年度
80.0%

上段:実数 下段:割合	全体	そう思う (a)	どちらかといえど思ふ (b)	どちらかといえど思わない	そう思わない	わからない	無回答	思う (a + b)
								上段:実数 下段:割合
①自分を大切に思ってくれる人がいる	727 100.0	489 67.3	174 23.9	15 2.1	8 1.1	36 5.0	5 0.7	663 91.2
②自分は人から必要とされている	727 100.0	251 34.5	282 38.8	64 8.8	31 4.3	92 12.7	7 1.0	533 73.3
③ほかのだれかや社会のために何かをしてあげたい	727 100.0	363 49.9	261 35.9	42 5.8	23 3.2	31 4.3	7 1.0	624 85.8
④何かをやり遂げてうれしかったことがある	727 100.0	560 77.0	119 16.4	10 1.4	3 0.4	24 3.3	11 1.5	679 93.4
⑤ものごとを調べたり考えたりすることは楽しいと思う	727 100.0	345 47.5	251 34.5	79 10.9	27 3.7	20 2.8	5 0.7	596 82.0
⑥自分の考えを聞いてもらってうれしかったことがある	727 100.0	396 54.5	197 27.1	61 8.4	30 4.1	36 5.0	7 1.0	593 81.6
⑦良いところばかりではないが、自分のことが好きだ	727 100.0	259 35.6	230 31.6	92 12.7	73 10.0	69 9.5	4 0.6	489 67.3

2. 子どもに関する意識調査

(3) 近所や地域とのつながりについて（問7）

- ・近所や地域のつながりをどのように感じているかについて、全体では「つながりはあまりないが、今後必要」が26.0%の割合が最も高く、次いで、「つながりはあるが、今後もっと必要」(21.7%)、「つながりは十分にある」(19.4%)となっている。
- ・『つながりはある』(「つながりは十分にある」+「つながりはあるが、今後もっと必要」)は41.1%となっている。



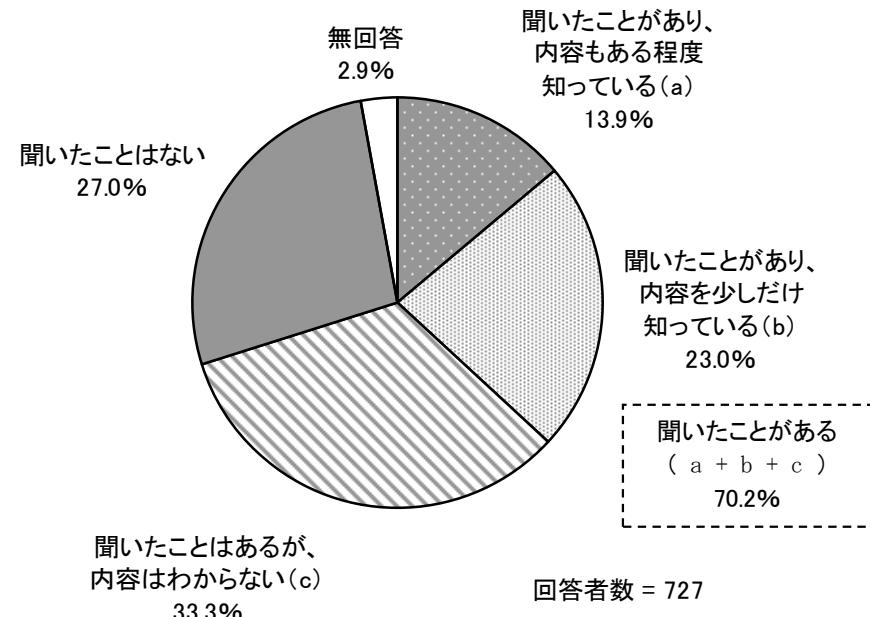
【成果指標】 近所や地域とのつながりがある子どもの割合



2. 子どもに関する意識調査

(4) 子どもの権利の認知度（問13）

- ・子どもの権利の認知度について、全体では「聞いたことはあるが、内容はわからない」の割合が33.3%と最も高く、次いで、「聞いたことはない」(27.0%)、「聞いたことがあり、内容を少しだけ知っている」(23.0%)となっている。
- ・『聞いたことがある』（「聞いたことがあり、内容もある程度知っている」+「聞いたことがあり、内容を少しだけ知っている」+「聞いたことはあるが、内容はわからない」）は70.2%となっている。



【成果指標】

子どもの権利についての認知度（子ども）



【参考】

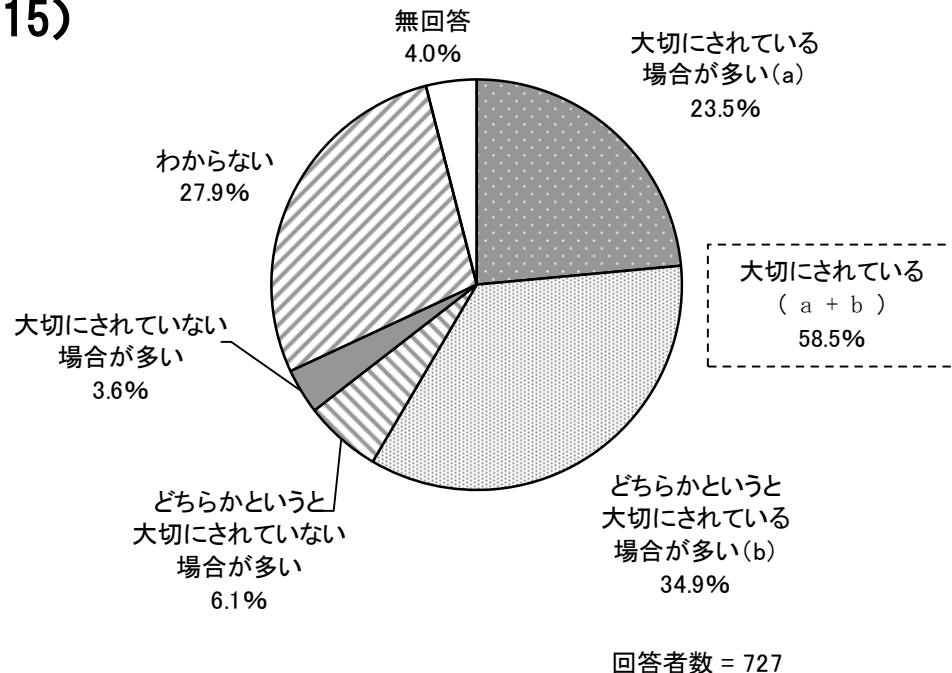
大人の認知度



2. 子どもに関する意識調査

(5) 子どもの権利が大切にされていると思うか (問15)

- ・子どもの権利が大切にされていると思うかについて、全体では「どちらか」と「大切にされている場合が多い」の割合が34.9%と最も高く、次いで、「わからない」(27.9%)、「大切にされている場合が多い」(23.5%)となっている。
- ・『大切にされている』(『大切にされている場合が多い』+『どちらか』)は58.5%となっている。



回答者数 = 727

【成果指標】
子どもの権利が大切にされていると思う人の割合 (子ども)

(当初値)
H30年度
63.8%
→ R2年度
62.3%
→ R3年度
58.5%
→ (目標値)
R6年度
70.0%

【参考】
大人の割合

(当初値)
H30年度
49.2%
→ R2年度
50.7%
→ R3年度
53.0%
→ (目標値)
R6年度
65.0%